

修学旅行で被災地学ぶ

神奈川県立中央農業高校

気仙地方



戸羽市長の話に耳を傾けた生徒たち＝気仙町

陸前高田市に25日、さなどについて学びを神奈川県立中央農業高等学校(江原洋一校長)の2年生178人が修学旅行で訪れた。生徒らは、被災した町の見学やボランティア活動などを通して、自然災害の恐ろしさや地域コミュニティの大切

このうち25日は、同市気仙町の「陸前高田市復興サポーターション」で、戸羽市長が生徒たちにあいさつ。「被災地には、子や親を亡くした住民がたくさんいる。皆さんにはぜひ、家族や周囲の人たちに感謝する気持ちを忘れず生きてほしい。陸前高田で知ったことを、何かの糧にしてもらえれば」と歓迎した。

同校の加来功教諭は「震災から時間が経ったからこそ、生徒たちに知ってもらえることがあると思えば被災地を旅行先に選んだ。住民の方々と触れ合うことで、自分の生き方を考えるきっかけになれば」と話していた。

草作業、仮設住宅のイベントへの参加、住田町で農業体験などを行い住民たちと交流している。

このうち25日は、同市気仙町の「陸前高田市復興サポーターション」で、戸羽市長が生徒たちにあいさつ。「被災地には、子や親を亡くした住民がたくさんいる。皆さんにはぜひ、家族や周囲の人たちに感謝する気持ちを忘れず生きてほしい。陸前高田で知ったことを、何かの糧にしてもらえれば」と歓迎した。

同校の加来功教諭は「震災から時間が経ったからこそ、生徒たちに知ってもらえることがあると思えば被災地を旅行先に選んだ。住民の方々と触れ合うことで、自分の生き方を考えるきっかけになれば」と話していた。

住田の家庭で農業体験

神奈川の高校生が民泊



神奈川県立中央農業高等学校(江原洋一校長)の2年生178人は24日から4日間、岩手県を会場に修学旅行を行った。このうち、25日夕から最終日にかけては住田町、遠野市の農業体験に取り組んでもらう家民泊し、農業体験

このうち、2日目から4日目は住田、遠野各市町の農家を訪れ、各家庭で生活を送りながら農業を体験。住田には54人の生徒が14班に分かれ、受け入れ先に赴いた。

世田米の農業・吉田了一さん(70)宅には、園芸科学科の生徒4人が宿泊。26日の農業体験では、吉田さん宅の敷地内に植えられているアジサイのせん定作業に汗を流した。

吉田さんは20年ほど前からアジサイを植え農業体験でアジサイのせん定に取り組む生徒たち＝住田町

神奈川県立中央農業高等学校(江原洋一校長)の2年生178人は24日から4日間、岩手県を会場に修学旅行を行った。このうち、25日夕から最終日にかけては住田町、遠野市の農業体験に取り組んでもらう家民泊し、農業体験

このうち、2日目から4日目は住田、遠野各市町の農家を訪れ、各家庭で生活を送りながら農業を体験。住田には54人の生徒が14班に分かれ、受け入れ先に赴いた。

世田米の農業・吉田了一さん(70)宅には、園芸科学科の生徒4人が宿泊。26日の農業体験では、吉田さん宅の敷地内に植えられているアジサイのせん定作業に汗を流した。

吉田さんは20年ほど前からアジサイを植え農業体験でアジサイのせん定に取り組む生徒たち＝住田町

始め、現在約1500株を栽培。花の時期には、地域住民らが見物に訪れている。日ごろの学校生活で花き栽培を学ぶ生徒たちは、「育ちそうな花芽を残して」などと互いにアドバイスを送り合い、スムーズに作業を進めていった。

部活動では造園部に所属しているという川股孔樹君は「こんなに自然が豊かな場所での作業はやりがいを感じるし、アジサイがいっぱいあるのでせん定の練習にもなる。前日は陸前高田市の被災地を訪れたが、実際に見て衝撃を覚えた。今回の旅行を少しでも自らの糧となるよう、頑張りたい」と話した。

吉田さんは「高校生の受け入れは初めて。園芸を専門に学んでいるので言わなくてもやってくれるし、手伝ってもらえて本当にありがたい」と話し、生徒たちの頑張りに目を細めていた。

始め、現在約1500株を栽培。花の時期には、地域住民らが見物に訪れている。日ごろの学校生活で花き栽培を学ぶ生徒たちは、「育ちそうな花芽を残して」などと互いにアドバイスを送り合い、スムーズに作業を進めていった。

部活動では造園部に所属しているという川股孔樹君は「こんなに自然が豊かな場所での作業はやりがいを感じるし、アジサイがいっぱいあるのでせん定の練習にもなる。前日は陸前高田市の被災地を訪れたが、実際に見て衝撃を覚えた。今回の旅行を少しでも自らの糧となるよう、頑張りたい」と話した。

吉田さんは「高校生の受け入れは初めて。園芸を専門に学んでいるので言わなくてもやってくれるし、手伝ってもらえて本当にありがたい」と話し、生徒たちの頑張りに目を細めていた。